



広島大学



広島大学平和センター
The Center for Peace, Hiroshima University



公益財団法人 広島平和文化センター
Hiroshima Peace Culture Foundation

科研費
JSPS23K22176



令和7年度（2025年度）市民公開講座

広島大学平和センター主催 広島平和記念資料館共催
一橋大学ジェンダー社会科学研究センター協力
国立大学経営改革促進事業

「オンナ・コドモの被爆と復興」 ～資料が語る被爆の長期的社会影響と市民の生きる力～

戦争、被爆、復興の動乱期に、広島・長崎の人々はどう生きたのか。貴重な資料と綿密な調査から、昭和の時代、足でまといの代名詞だった「オンナ・コドモ」の生きる力が浮き彫りになる。
原爆・被爆がもたらす中長期的社会影響を探り、被爆の実相をさらに深く理解したい。



がれきの中でこどもを背負い洗濯する女性
1945年（昭和20年）10月～12月 米国戦略爆撃調査団撮影 米国国立公文書館所蔵



広島平和記念資料館 地下1階メモリアルホール

2026年1月31日(土)13時～16時（開場12時30分）

手話通訳付き 参加無料 要予約（QRコードまたはお電話で）

電話受付 平日 9:30-16:30

広島大学平和センター

082-542-6975

申込期限 2026年1月30日正午

石田芳文

広島平和記念資料館

ファンデルドゥース

瑠璃
広島大学
平和センター

山口響

長崎大学
核兵器廃絶
研究センター

四條知恵

広島市立大学
広島平和
研究所

平井和子

一橋大学
ジェンダー
社会科学
研究センター

松永健聖

大阪大学
大学院
人文学研究科

広島大学平和センター主催 広島平和記念資料館共催 一橋大学ジェンダー社会科学研究センター協力
国立大学経営改革促進事業

令和7年度（2025年度）市民公開講座「オンナ・コドモの被爆と復興」 ～資料が語る被爆の長期的社会影響と市民の生きる力～

広島平和記念資料館 地下1階メモリアルホール 2026年1月31日（土）13時～16時（開場12時30分）

13:00-13:05 開会の挨拶 ファンデルドゥース瑠璃 広島大学平和センター長

13:05-13:20

「戦争・原爆がもたらした女性・こどもの苦難～資料館の展示から～」



石田芳文（Yoshifumi ISHIDA）。広島平和記念資料館館長。広島大学法学部卒。1986年広島市役所入庁。市民局被爆体験継承担当課長、企画総務局連携推進担当部長、議会事務局長などを歴任。担当課長時に平和記念資料館再整備計画、被爆体験伝承者養成事業に携わる。2024年4月より現職。

13:20-13:35

「被爆地の復興と女性の生業および子どもへの影響」



ファンデルドゥース瑠璃（Luli van der Does）。広島大学平和センター長・大学院人間社会科学研究科准教授。博士（社会科学）。「占領下の『被爆地復興言説』と女性」、「戦争・原爆の世代間連鎖の実態と克服」、及び「記憶学」アジア拠点設置国際共同研究プロジェクト代表。成果に「戦争への終止符（法律文化社 2016年）」、「Forgetting Hiroshima (RUSI, 2025年)」など。ケンブリッジ大学出版学術誌「Memory, Mind, Media」編集顧問。

13:35-13:50

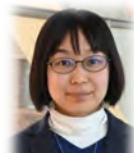
「長崎の被爆と〈復興〉——女性たちはどう生きてきたか」



山口響（Hibiki YAMAGUCHI）。長崎大学核兵器廃絶研究センター特定准教授・客員研究員。博士（社会学）。専攻は原爆投下後・戦後の長崎の歴史。活水高校等で非常勤講師。「長崎の証言の会」被爆証言誌編集長。長崎新聞客員論説委員（「ながさき時評」欄担当）。共著に、長崎大学多文化社会学部編『大学的長崎ガイド——こだわりの歩き方』（昭和堂、2018年）、共編著に長崎原爆の戦後史をのこす会他編『原爆後の75年——長崎の記憶と記録をたどる』（書肆九十九、2021年）。

13:50-14:05

「視覚的資料から見る西遊郭とその被害」



四條知恵（Chie SHIJO）。広島市立大学広島平和研究所准教授。博士（比較社会文化）。広島平和記念資料館学芸員、長崎大学核兵器廃絶研究センター客員研究員などを経て、2021年より現職。専門分野は、原爆被害の記憶・表象研究。著書に『浦上の原爆の語り——永井隆からローマ教皇へ』（未来社、2015年）。共編著に長崎原爆の戦後史をのこす会他編『原爆後の75年——長崎の記憶と記録をたどる』（書肆九十九、2021年）など。

14:05-14:20

「原爆被害と女性の『復興』への動員と排除」



平井和子（Kazuko HIRAI）。一橋大学ジェンダー社会科学研究センター客員研究員。専門は近現代女性史・ジェンダー史。博士（社会学）。静岡大学・大妻女子大学等の非常勤講師を経て、一橋大学ジュニアフェローなど。主な著書：『「ヒロシマ以後」の広島に生まれて』ひろしま女性学研究所、2007年上野千鶴子・蘭信三・平井和子編著『戦争と性暴力の比較史へ向けて』岩波書店、2018年『占領下の女性たち——日本と満洲の性暴力・性売買・「親密な交際」』岩波書店、2023年（女性史 青山なを賞受賞）など。

14:20-14:35

「被爆地の子どもは、なぜ語られ続けてきたのか」



松永健聖（Takemasa MATSUNAGA）。大阪大学大学院人文学研究科博士後期課程学生。1997年、大阪府生まれ。戦後の「子ども」をめぐるポリティクスについてジェンダー史の視点から研究する傍ら大学の所在する豊中市役所と連携して官学協働の平和教育のあり方を模索している。摂南大学・大阪公立大学工業高等専門学校・奈良県病院協会看護専門学校非常勤講師。日本学術振興会 特別研究員（DC2）。

14:35-14:50

休憩

14:50-15:50

質疑応答とパネルディスカッション

15:50-16:00

閉会の挨拶 石田芳文 広島平和記念資料館館長



参加無料 要予約
電話受付

平日 9:30-16:30

広島大学平和センター

082-542-6975

2026年1月30日正午 必着